



新工SPH通信

VOL. 25

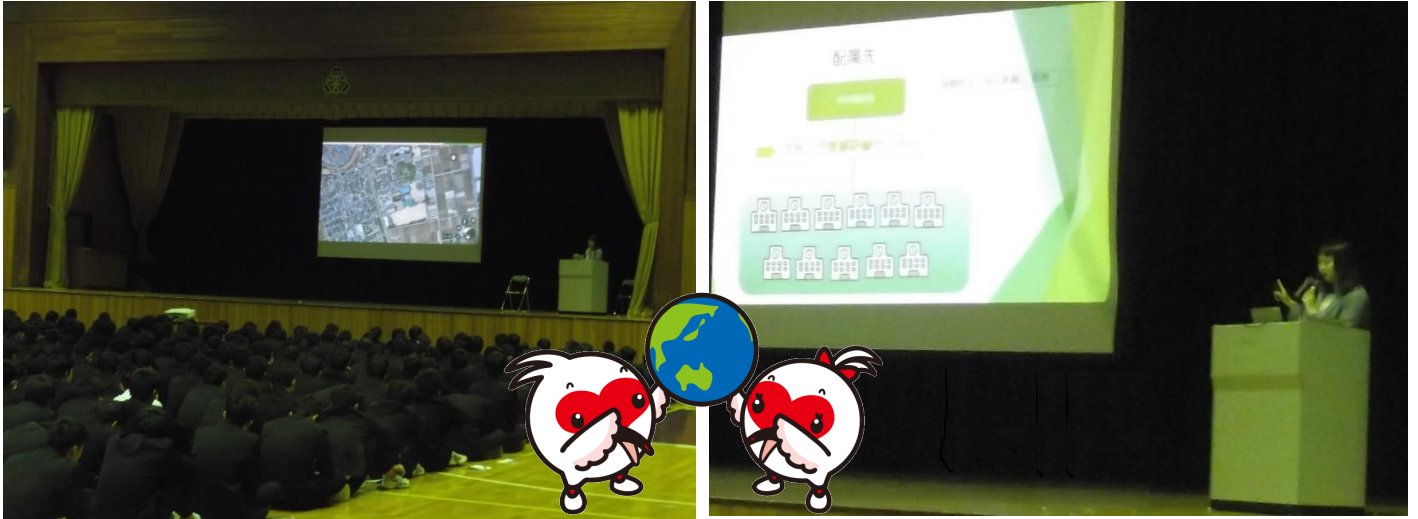
新潟県立新潟工業高等学校

SPH推進委員会

平成29年11月15日

Community cooperation

平成29年11月14日(火) 全校生徒を対象に、国際社会における課題を思考し、その解決につながる技術を用いた国際貢献について関心・意欲を深めることを目的に「外国人と共に働くとはどういうことか」をテーマにJICA新潟デスクの北愛子様を講師にお招きし、本校体育館で講演をしていただきました。



【講演内容】

- 新潟県の総人口は近年、年ごとに減少しているが、県内で暮らす外国人の数は年々増加している。
- 海外に行かなくても外国人とかがかわる機会が増え、外国人と共に働くことについて考えることが必要。
- 日本から海外を見た単なる国際化という捉え方と国境という概念がないグローバル化の違い。
- アフリカで音楽の指導方法を現地の教員に伝える活動の中で苦労したことは、日本とマラウイでは人が大切にしていることが大きく異なり、決まった時間に集合することすらできない状況下でどうしたらルールや価値観を理解し共有できるかを自分で足を運び相手の話を聞きながら解決していったこと。
- 新潟県出身で主に工業の分野で活躍している青年海外協力隊の方についての紹介。

【生徒の感想（スキルアップシートより）】

- 異文化を最初から拒絶せずに話し合いなどのコミュニケーションで互いに納得することが大切であることが分かった。
- 今後海外へ行く機会があればぜひ行ってみたい。積極的にグローバル化に関わり世界の役に立つことはとても良いことだと思った。
- 国内でも外国人が増え、グローバル化が進む現代で、この先、違う文化を持つ人と関わる機会が多くなると思うので、その時には相手の文化を寛容に受け入れるようにする考えを持ちたいと思った。
- アフリカの国では時間を守ることより、あいさつを大切にしていることが印象に残った。自分もあいさつを大切にしようと思った。
- 技術だけではなく、考え方を教えることが良いと思った。あきらめてしまうと何もそこから発展しない。

【生徒の変容と身についた力（スキルアップシートより）】

- 青年海外協力隊の具体的な活動内容から開発途上国では若い日本人が技術の伝承に大きく貢献し、特に工業系の人材が求められていて、工業高校で学ぶ自分たちも遠い存在ではないことに気付く生徒が多かった。
- 海外では日本人と大きく異なる価値観が存在し、自分の常識が外国人には理解できないことが共に働く際の障害となり、日本で普通にできている自分のやり方が現地では通用しないと分かったとき、あきらめることなく目標を達成するためには「何が必要か」を自ら考えることが求められ、相手が望んでいることを良く聞き、自分で課題を解決していったことを講師から学び講演の核心をとらえていた生徒が多かった。
- 国際化とグローバル化の違いが分かるようになり、日本と海外では文化や考え方が大きく違っていて、今後外国人と交流するときは、お互いの文化を尊重し認め合えるようにしたいと考える生徒が多かった。